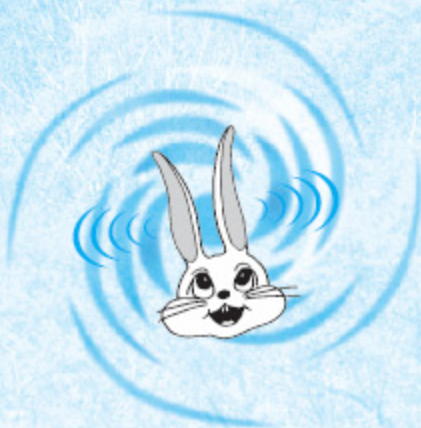




Comfort Hearing みみより News

No.009
09,10,30

ご挨拶

JHIDA機関誌85号をお届け致します。

協会の県部会長一覧がP2～P3に。若手の登場が頼もしい。金沢大学准教授・伊藤真人先生からKEY PERSONのページを頂いています。今号は日本聴覚医学会が例年より少し遅れ（10月22日、23日）つられて本誌も遅れてしまいました。



写真は、デンマーク・コペンハーゲンのクロンボーク城です。対岸にスウェーデンを望む岬、その先に建つこの城は、16世紀のデンマーク国王フレゼリク2世によって完成された北欧ルネサンスを代表する傑作です。シェークスピアの戯曲「ハムレット」の舞台としても有名です。

みみよりNEWS 第9号をお届け致します。

今後とも皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

中国補聴器センター 代表取締役 福元儀智

尚、御意見・御指摘 Email でお寄せ下さいますようお願いいたします。

トピックス

- | | |
|-----------------------|----------------------------------|
| 【Ⅰ】コペンハーゲン・ISAARに参加して | 【Ⅴ】岡山市「日本のうた」支援 |
| 【Ⅱ】第54回 日本聴覚医学会 | 【Ⅵ】補聴器体験・まつわる話題 懸賞文企画 |
| 【Ⅲ】聴覚医学会 口演報告 | 【Ⅶ】第14回 (2009年) 途上国の難聴児に補聴器を贈ろう! |
| 【Ⅳ】第32回 補聴研究会 | |

みみよりNEWSのバックナンバーは当社ホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.chc-ha.co.jp> E-mail fukumoto-y@chc-ha.co.jp

【Ⅰ】コペンハーゲン・ISAARに参加して

「牛に引かれて善光寺」ならぬ、コペンハーゲンに連れて行ってもらいました。ISAAR (International Symposium on Auditory and Audiological Research)の“Binaural processing and spatial hearing”に参加しました。(8月26日～28日)

演題は25、ポスターセッションには45題が展示されていました。全く、しぼりの無いGNダナボックス社がスポンサーで、1968年から続き、演者はアメリカ・カナダ・イギリスそしてデンマークを主体とするヨーロッパ大陸各国から参加されていた。ビックリしました、横浜国立大の中川辰雄教授にバッタリ、先生はポスターセッションに出題されていました。また、日本留学?の若い中国人Junfeng Liさんも。いずれも内容・密度は高く、科学者の論理が述べられた。高度難聴に加え、毫碌が進行している小生には10分の1も分からず・・・残念?

【Ⅱ】 第54回 日本聴覚医学会

2009年10月22日(木)、23日(金)、新横浜プリンスホテルにて岡本牧人会長(北里大耳鼻咽喉科教授)のもとで開催された。全39群167演題が発表された。

初日、二日目ともランチョンセミナーがあり、二日目終了後に補聴研究会、難聴遺伝子の研究会が開かれた。補聴関係では主題1は、両耳補聴が4群・15題、補聴も4群17題が発表された。両耳補聴では補聴器だけでなく、人工内耳の両耳や人工内耳と補聴器による両耳が半数を占めていた。

(両耳補聴の検討は健聴者での研究が重要と考え、本年8月に社員に両耳補聴体験とその体験記をまとめた。擬似両側難聴、片側難聴＝1側補聴、両耳補聴＝元の健聴耳、それぞれの体験をして貰った。両耳補聴の理屈・理論は分かっているけど体で知る!事の実験であった。次号で詳細報告します。)補聴群では、雑音抑制に関して2題あった。MCLという文字がある演題が小生発表のものを入れて2題あった。補聴器装用下で語音弁別音での「ちょうどよい」音圧をMCLと示されており、短い持続音である単音節を用いての音場。また装用補聴器の圧縮性能(CR、KP)が不明でのMCLに疑問を持ち、ラウドネスグロースの中のMCL、測定について、質問させていただいた。

【Ⅲ】 聴覚医学会 口演報告

「アンケートからみたMCLフィッティングの妥当性」を発表した。

○福元儀智 杉原三郎(山陰労災病院)

インサートイヤホンを用いてMCLを指標とするフィッティングについては、2000年の学会で口演し、2001年に論文として発表した。ここで閾値が同一(±5dB以内)でもMCLは25dBの幅・差があること、調整ソフトによるレスポンスはメーカーにより、またルールにより10dB以上の差異があり、我々の導き出した特性とは20dBもの差があること。そしてMCLフィッティングではボリュームのないデジタル補聴器において、約87%に再調整が不要であったことを述べた。

今回2009年1月～3月までアンケート回答のあった耳あな型205耳について慣れる期間の回答に着目し、経験者、経験なしで評価がどうか、また、操作性・装着感について両者の差異、聞こえ具合についての差異を示した。結論はMCLを指標にしたフィッティングでは、経験の有無に関わらず、しっかりした指導・練習・調整(フィッティング行為の一部)をすれば、1～2週間で使用できるようになり、フィッティングの妥当性が認められた。これより貸出・試聴を繰り返す期間も不要であると結論づけた。

以下、当日のスライドを示します。

アンケートからみた MCLフィッティングの妥当性

福元 健智 中国補聴器センター
杉原 三郎 山陰労災病院

1

目的

- ◆ MCLフィッティングの妥当性
- ◆ アンケート調査
操作性・装着感・聞こえ具合の評価
- ◆ 慣れる期間
- ◆ 補聴器経験の有無
- ◆ 補聴器貸出試験について

2

対象

- ◆ 2009年1月～3月の回答
- ◆ 耳あな型(オーダーメイド) 205耳
- ◆ 年齢 20～95歳 男性78人 女性100人
- ◆ 聴力 29～86dB 平均57dB

3

アンケート項目と評価

No.	項目	無経験群	有経験群
1	補聴器の着脱	できる	なんとながでできる
2	電池の出し入れ	できる	なんとながでできる
3	ボリュームの操作	できる	なんとながでできる
4	装着感	快適	少し重くなる
5	大きな声	びっくり	少しびっくり
6	3分1の聞き取り	よくわかる	聞き取れない
7	奥で話す聞き取り	よくわかる	聞き取れない
8	自分の声	こもる	少しこもる
9	テレビ	よくわかる	聞き取れない
10	慣れる期間	3日	1週間

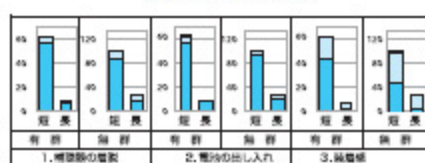
4

補聴器に慣れる期間(205耳)

	有群	無群
短期 (3日・1週間)	62耳 (88,6%)	105耳 (77,8%)
長期 (2週間)	8耳 (11,4%)	30耳 (22,2%)

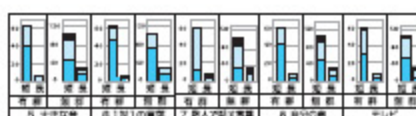
5

操作性・装着感



6

聞こえ具合



7

貸出・試験の問題点

- ◆ 形状が希望するものと異なる場合
操作性・装着感の確認ができない可能性がある
- ◆ 満足度が得られない場合
使用者の感想のみに基づき、明確な指標が無いままに、補聴器特性の変更が繰り返されている

8

フィッティングの原点

- ◆ 個々の聴覚データ
- ◆ 増幅度・最大出力・周波数特性
- ◆ 環境音で決定されない
- ◆ 閾値のみでなくMCL・UCLが必要

9

結論

MCLを指標にフィッティングを行い、アンケートで明らかになった項目をしっかりと指導・練習・調整すれば、補聴器経験の有無に関わらず1～2週間のうちに補聴器を使用できるようになり、貸出・試験を繰り返す期間は不要。

10

質問：奈良大・細井裕司先生

「MCLは幅が広く、変動もあり特定しにくいと思うが。」

応答：「我々は1998年よりMCLを測定しております。1997年からインサートイヤホンを用いるようになり安定した結果を得ております。」

雑感：MCLについて

昨年の発表にもあったがMCLの定義が曖昧に感じた。Most Comfortable Levelは単に丁度聴きやすいレベルではなく、ラウドネス・グロースにおいて、少し小さい→丁度良い→少し大きい→大きい、と感ずる中での相対的なものである。特に補聴器を装着して単音節67-S語表でのラウドネス・グロースのMCLには違和感があった。補聴器を通すラウドネス・グロースは特性の違い、特にコンプレッションでは入力あるいは増幅度を大きくしても、UCLに達しにくいはずだ。補聴器出力によるラウドネス・グロース(LG)ではなく、裸耳での測定法を議論する必要を感じた。

【Ⅳ】 第32回 補聴研究会

下記のように開催された。時間の都合か座長のコメントのみで質疑応答は無しであった。

日時：平成21年10月23日（金）16：00～18：00

演題1、新生児と床区スクリーニング検査導入後の聴覚活用および補聴器フィッティングの現状

北 義子（国立リハビリテーションセンター学院）

廣田栄子（筑波大学大学院）

座長 廣田栄子（筑波大学大学院）

演題2、床材料の残響時間特性の違いが音声聴取に及ぼす影響

——健聴者と高齢者における検討——

白石君男（九州大学大学院芸術工学研究院音響部門）

岡部桂以子（九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻）

座長 岡本牧人（北里大学医学部）

演題3、FM補聴器の適用：音響的評価と聴取評価

細矢義伸（京都府立聾学校）

座長 立入 哉（愛媛大学教育学部）

演題4、デジタル補聴器の雑音抑制機能と雑音負荷語音明瞭度について

亀井昌代・佐藤宏昭・小田島葉子・村井和夫（岩手医大耳鼻咽喉科）

米本 清（岩手県立大学）

座長 小寺一興（帝京大学医学部）

演題5、補聴器及び関連機器による雑音対策の現状と最新技術について

川津 潤（日本補聴器工業会）

座長 細井裕司（奈良県立医科大学）

【Ⅴ】 岡山市「日本のうた」支援

岡山市の政令指定都市を記念する「おかやま国際音楽祭2009」の1つを支援した。

10月4日（日）岡山市民会館にて「日本のうた/OKAYAMA発ふるさとを想う」山陽放送（RSK）企画に協賛した。当日、補聴器懸賞文の入賞者様をご招待した。伍代夏子さんをメインにコロケさんの熱演に大いに盛り上がり、韓国、沖縄、鹿児島からの熱唱に観衆は酔いしれた。

【Ⅵ】 補聴器体験・まつわる話題 懸賞文企画

岡山県下の補聴器愛用の方々に懸賞文を募集・応募頂きました。最優秀賞：窪田昭子様 他、優秀賞：5名様、入賞：10名様にすばらしい感想文を頂きました。供給する側からは見えない「補聴器の姿」を述べて頂き、ご愛用頂いている喜びを知り、社員一同さらに一層より良い聴こえのご提供に邁進していく所存です。

【Ⅶ】 第14回（2009年） 途上国の難聴児に補聴器を贈ろう！

昨年はGNリサウンド社、スターキー社、シーメンス社から計42台をご協賛いただき、当社が協賛・整備したものと合計86台が佐渡市・荒井眞理先生と共にバングラデシュへ渡りました。

本年は思わぬ要請が舞い込み、BOX：8台、耳かけ：6台、計14台がスリランカに！9月25日愛媛大・立入哉先生よりメール。熊本大・教育学部の古田弘子先生から補聴器が必要との伝言。9月中に送りたい！とのご希望。3月「耳の日」でのキャンペーンに当社に頂いたものの修理・整備が終わっておらず、大至急作業。10月1日、14台にコード20本、電池等部品を加えて古田先生に発送。スリランカ、元大学教授ペラデニヤ先生から難聴児に無事届くとのこと。有効に活用されることを願っております。また、これまでの14回の総括と今後の途上国難聴児への取り組みについて次号で述べます。

（株）中国補聴器センター

URL <http://www.chc-ha.co.jp>

E-mail fukumoto-y@chc-ha.co.jp